

世界の明日をつくる 日本のものづくり

ものづくり日本大賞で輝く西条の人材

経済産業省や文部科学省など4省が連携して平成17年に創設した「ものづくり日本大賞」。これは、製造・生産現場の中核を担う中堅人材や、伝統的・文化的な「技」を支えてきた熟練人材、さらに今後を担う若手人材など、「ものづくり」に携わる各世代のうち、特に優秀と認められる個人やグループを表彰することで、我が国の産業や文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく貢献してきた「ものづくり」を着実に継承し、さらに発展させていくことを目的とするものです。

今回の大賞において、ものづくり人材の先導者と認められた本市関係の皆さんをご紹介します。(以下、敬称略)

■優秀賞(製品・技術開発部門)
 (株)谷口金属熱処理工業所
 樽島吉鷹・浜辺晃弘・高田祐介

○受賞件名
 ホットガスを利用した歪み・変形の少ない熱処理技術および熱処理装置の開発
 ○受賞内容
 金属を加熱し冷却することで、金属の持つ強度や伸びなどの性質を変化させる熱処理技術。精密金属加工品等の熱



樽島吉鷹氏(写真右)と高田祐介氏
 浴炉が

処理では、これまで加熱した金属を塩化バリウムや硝酸塩で冷却する「塩

主流であったが、作業環境や熱効率・産業廃棄物などが問題となっていた。
 そこで、窒素など不活性ガスの冷却制御技術を確認させ、この不活性ガスを用いて加熱した金属を段階的に冷却する技術と、その装置「ホットガス炉」を開発することにより、環境に配慮した歪みや変形の少ない高精度の金属熱処理を実現させた。

■四国経済産業局長賞
 (製造・生産プロセス部門)
 (株)大亀製作所
 大亀明人・森岡祥司・吉田千里・松本広幸・加藤直之
 大鉄産業(株) 松尾吉高

○受賞件名
 自動車・産業機械用小ロット铸造品の高品質・高効率型生産システムの設計・開発と実用化
 ○受賞内容
 铸造とは、金属を熱し液体にしたものを型に流し込み、冷やし固めて目的の形状に加工する技術で、その型に用いる砂を圧縮した砂型の造型作業では、製造する製品ごとに基となる鑄型を取り替える必要がある。多品種少量生産を



森岡祥司氏(写真左)と吉田千里氏
 行う(株)大亀製作所

換するという作業を、1日に50回以上も人力で繰り返していた。

そこで、鑄型の収納庫と改良を加えた造型機とを組み合わせ、新たなシステムを設計・開発して、鑄型の交換から造型までを自動化させたことにより、省人化・作業の効率化や製品の不良率低減が図られ、低コストでの多品種少量生産を実現させた。

■四国経済産業局長賞
 (青少年支援部門)
 (有)タカヨシ工業所

(青少年支援部門)

○受賞件名
 普通旋盤加工の「匠」による高校生へのものづくり伝授
 ○受賞内容
 新居浜工業高等専門学校や東予高校などの教育現場で、産官学連携による旋盤加工技術の伝授など、次世代のもの



旋盤加工の「匠」
 曾我部善男氏
 づくりを担う若年人材の育成に積極的に取り組んでおり、西条市が推進

「三次元動作解析システムを用いた技能伝承(暗黙知の可視化)事業」では、旋盤加工の「匠」と称される(有)タカヨシ工業所の曾我部善男会長の結果を京都工芸繊維大学や新居浜工業高等専門学校・大阪産業大学が学術的視点から考察・評価して、言葉では表現できない経験や勘に基づいた技術を可視化することで、教育現場や製造・生産現場での技能伝承が期待される。

サイクスでは、ものづくりの現場を活性化させ、地域の製造業のさらなる発展に寄与するよう、今後も多方面からのサポートに努めてまいります。

